

KM Report

知
KMSJ

VOL. 20

2006 July



CONTENTS

- TKFサンパウロ参加募集
- ブラジルを想う / TKFサンパウロへの期待
- TKFサンパウロの日程
- ナレッジ企業紹介：ニデコビジネスソフト
- 第8期事業報告等
- KM関連図書案内
- 役員 / アドバイザリーボード等
- インフォメーション

第2回目の知のオリンピックに参加しませんか？

第2回TKF (The Knowledge Forum) が
ブラジル、サンパウロで開催されます。奮って、ご参加ください。

- 1 会議テーマ : “Knowledge Management, The Cultural Issue!”
- 2 会議日程 : 9月18日・19日・・・国際会議
- 3 開催場所 : ブラジル、サンパウロ、サンパウロ大学にて
- 4 視察ツアー : 9月16日(土) 成田発、(サンパウロ・イグアス滝・リオデジャネイロ・リマ・クスコ・マチュピチュ)
9月27日(水) 成田着の12日間。

日本ナレッジ・マネジメント学会は、昨年3月18日に寛仁親王殿下のご講演を賜り、第1回TKF (The Knowledge Forum) 東京を虎ノ門パストラルで盛大に開催しました。

前回の大会テーマは、“ Japanese Chi : Edge of Evolution ” でした。

第2回TKFは、来る2006年9月18日・19日、ブラジルのサンパウロ大学で開催されます。

今回の大会テーマは、“ Knowledge Management The Cultural Issue ” です。日本からは7~8名が、講演者やパネラーとして参加致します。世界からの講演者が、最先端経営論や成功事例等を発表します。ご期待ください。

ブラジルは、遠い国ですが日系人が多く、近い国中国と同様、BRICsの1国として近年著しく経済発展している国です。ナレッジ・マネジメントの国際会議参加と経済・文化視察を下記の日程で企画しましたので、またとないこの機会に、ご友人をお誘いの上ご参加ください。

地球の裏側へ行く機会は、そう多くないと思われれます。会員の皆様には、この機会を捉えて奮って、御参加くださいますよう、ここにご案内申し上げます。

2006年7月1日

日本ナレッジ・マネジメント学会 理事長
第2回 TKFサンパウロ参加団 団長
第2回 TKFサンパウロ参加団 実行委員長
日本ナレッジ・マネジメント学会 国際部長

森田松太郎
高梨 智弘
岡田 依里
進 博夫

参加募集!

ブラジルを憶う

健康づくり支援センター 健康づくり推進員
青野 光裕

ブラジルを思い返すとすれば小生の場合は、中南米各国の同時債務危機の時期に戻る。この危機をいかに抑え込み、経済をいかに安定軌道に戻せるか等々論議沸騰の中、私自身、時にブラジリアの財務省や中央銀行の幹部との面談に急ぎ、また時には米国を始めとする各国バンカー達との情報追求に追われていた生々しい経験があるからです。20年も昔の話ですが、時に最近の事であったかのごとく錯覚しそうな不思議さ。

又その2-3年前までは日本の産業界は資源開発輸入を目論み、鉄鉱石、パルプ、アルミ用資源（ボーキサイト）等の採掘プロジェクトに関する技術・金融協力に注力していました。私自身もそれらの準備のためアマゾン地帯や中央部の開発環境調査や搬出経路・自然条件見学等の為、ジャングル地域内の各現場に再三実踏した事がありました。

個人的旅行で行った廣大湿原パンタナル、荒々しい自然の滝イグアス、農業開発地セラード地帯等々の風景や各種自然体験。いずれも忘れがたい鮮明な残影を残してくれており、今や懐かしさも感じる得難い体験となっています。

比較的温暖な地域に生まれ育ち暮らした人間には、目もくらみそうな南の太陽のまばゆさ、遠景傾斜面に密集して林立する様に見える白い高層ビル街、対象的な青い空と原色系の鮮明な花の色や緑濃い熱帯植物、草花がむせかえり焦げついたような独特の匂い（熱帯独特の香と思う）、それらに混じって漂うコーヒー臭等、まさに印象的でありました。今ではどこかの南国でもこれに類した都市の風情や街の感触には、いつも俺の季節が戻って来たとはばかり不思議な親近感を感じるまでになりました。自分は南国に強く、夏が冬より数倍好きな熱帯系の人間だった様です。

ブラジルは昨今比較的経済も安定しているらしく、輸出も伸び、貿易収支黒字は年間約350億ドル前後。ただ、債務残高はまだ多く、ともすると好不調の切替えピッチが早く、あっという間に入れ替り経済危機も繰り返して来た次第。過去に学ぶ気がないのかと揶揄された事もありました。油断するなよと激励し、持続させて欲しいと祈ります。

スペイン系よりは温厚なポルトガル人気質を受け継ぎ、アッケラカンと陽気な面の出やすい気質、リオデジャネイロの海辺の美観、カーニバル、女性の肉体美等々一般の好感度は高目。また日本人も受け容れられ易い国柄です。初めて訪問の人達には出来れば駆け足旅行は止め「ゆっくり滞在」を勧めたい訳ですが、なにしろ往復の移動（ドアー・ツードア）に四日は取られる遠さ。それに時差が残る。忙しい人に無理を言えませんか！

三ヶ月も滞在して様々な場面に遭い、何でもありのお国柄に接し、アマゾンの大自然や鱈・ピラニア・カピバラ、熱帯系のいろんな大魚、珍鳥等々にも親しめば、人間観・自然観は大きくなり、ゆとりのある茫洋たる生活観で人生楽しむが最優先の親しみのある人柄になること請け合い。ただし、日本の官僚型管理会社では「はみ出し」になりかねませんので、ご注意ください！ここにもその一例がいますので...

「第2回 TKFサンパウロへの期待！」

第2回 TKFサンパウロ参加団 実行委員長
岡田 依里

このたび、第2回TKFがサンパウロで開催されます。これは人や集団の知を改めて考える、よい機会です。ブラジル、というと、経済界ではエタノールやBRICsのイメージが強いかもしれませんが。そうした中、今回のテーマは「“文化”という文脈での知」です。

“文化”は、ノスタルジーではありません。人・集団ないし組織の営みや価値観を規定します。個人にできる範囲は限られているし、集団としても資源制約等の関係で、私たちが何を重要として意識し行動するかは自然に決まってくる。しかしその中で当然、人も組織も、無意識のうちに多くを見ごします。また日々の仕事に卓越するあまり、ときには気づくべきことに気づかず、人や集団のアイデンティティさえわからなくなることもあるのではないのでしょうか。今回ブラジルでは、異なる基盤をもつ他者との知の交わりの中で、それぞれの知の根源に迫り、あすへの糧、革新への気づきを得ることを期待します。

TKFサンパウロの日程

ブラジル・ペルー行程

月 日	曜日	地 名	時 刻	移 動 手 段	予 定	宿 泊 地	食 事	
9月16日	(土)	成田発	15:30	DL056	アトランタへ向け出発	機内泊	夕：機内	
		アトランタ着	15:00		国際日付変更線通過		機内泊	昼：機内
		アトランタ発	19:40	DL105	入国審査、乗り継ぎ 空路サンパウロへ			
9月17日	(日)	サンパウロ着	6:05	専用車	着後市内観光	サンパウロ泊	朝：機内 昼： 夕：	
9月18日	(月)	サンパウロ	終日		TKF参加	サンパウロ泊	朝： 昼：× 夕：	
9月19日	(火)	サンパウロ	終日		TKF参加	サンパウロ泊	朝： 昼：× 夕：	
9月20日	(水)	サンパウロ発	9:00	JJ3888	空路リオデジャネイロへ	リオデジャネイロ泊	朝： 昼： 夕：	
		リオデジャネイロ着	10:00	専用車	着後市内観光(キリスト像)			
9月21日	(木)	リオデジャネイロ発	11:10	JJ3153	空路イグアスへ	イグアス泊	朝： 昼： 夕：	
		イグアス着	13:15	専用車	着後イグアスの滝観光 (ブラジル側又はアルゼンチン側より)			
9月22日	(金)	イグアス		専用車	着後イグアスの滝観光 (ブラジル側又はアルゼンチン側より)	サンパウロ泊	朝： 昼： 夕：	
		イグアス発	13:45	JJ3558	着後ホテルへ			
		サンパウロ着	15:15	専用車				
9月23日	(土)	サンパウロ発	6:15	JJ8460	空路リマへ	リマ泊	朝： 昼：機内 夕：	
		リマ着	9:25	専用車	着後リマ市内観光			
9月24日	(日)	アトランタ着	7:00		空路東京へ	クスコ泊	朝： 昼：機内 夕：	
		アトランタ発	10:00	DL055				
		リマ発	9:30	LP027				空路クスコへ
9月25日	(月)	クスコ着	10:45	専用車	着後クスコ観光 (アルマス広場, サントドミンゴ教会, 12角の石)	クスコ泊	朝： 昼： 夕：	
		東京(成田)着	13:25					
9月25日	(月)	クスコ発	朝	列車	列車にてアグアスカリエンテスへ	クスコ泊	朝： 昼： 夕：	
		アグアスカリエンテス着	午前	バス	バスにてマチュピチュ遺跡へ			
		マチュピチュ遺跡	午後	列車	観光 列車にてクスコへ			
9月26日	(火)	アグアスカリエンテス発	午後		着後ホテルへ	リマ(デイクース)	朝： 昼：× 夕：×	
		クスコ着	夜					
9月26日	(火)	クスコ			出発まで自由行動	リマ(デイクース)	朝： 昼：× 夕：×	
		クスコ発	10:25	LP115	空路リマへ			
		リマ着	11:45	専用車	着後リマへ			
9月27日	(水)	自由行動(出発までホテル利用)	午後	専用車	空港へ	機中泊	朝：機内 昼：機内	
		夜						
		リマ発	0:20	DL274	空路アトランタへ			
9月28日	(木)	アトランタ着	8:05		入国審査、乗り継ぎ	機中泊	朝：機内 昼：機内	
		アトランタ発	10:00	DL055	空路東京へ			
		成田着	13:25					

交通機関、時刻等は諸事情により変更になる可能性があります。

ハーバード・ビジネススクールKaplan教授とNorton氏により15年前に開発されたBSCは、導入企業や組織事例に基づくベストプラクティス研究によって、初期の業績評価システムから業績マネジメントシステム、戦略実行能力の3つの利用サイクルを通じて発展してまいりました。(図1参照)

ニデコビジネスソフト(NBS)は、BSC提唱者Kaplan教授及び関連団体(BSCol)とのメンバーシップによりBSC3つの基本、戦略管理プロセスの教育訓練、BSC導入に関するコンサルティング、更にBSCメソッドロジーとテクノロジーをリンクしたBSCアプリケーションソフトウェアCockpit Manager™ Webエンタープライズによる総合的なBSCに基づく戦略マネジメントソリューションを提供しています。

Kaplan教授は、2000年のStrategy Focused Organization(SFO)で、“幹部を動員する 戦略を翻訳する 組織を整合する 戦略を全ての人に動機付ける 戦略を継続的に管理する”SFO管理5原則を発表し、実行プロセスを明確に定義し、戦略の実行管理フレームワークへ発展させました。2003年の戦略マップで、どのように戦略が策定できたかをはっきり見ようと試みることを可能にし、従業員へ簡単にはっきりと戦略を説明する新しいメソッドロジーを発表し、ここにBSCに基づく戦略マネジメントを効果的に実行する”戦略を説明し、業績を測定し、管理する“3つの基本メソッドロジーを完成させました。

企業や組織において、うまく策定された戦略でもその90%は、戦略の実行がうまくいっていません。その理由は、“自分の戦略を説明できない”、“自分の戦略を管理できない”、“戦略を実行する能力を持っていない”という結果がでています。即ち“戦略そのものより大切なものは、戦略を実行する能力である”ということになります。私達は、BSC3つの基本メソッドロジーから如何にうまく戦略を実行するかを学ぶことができることがわかりました。BSCは、最終的に、ハーバード・ビジネスレビューにより、20世紀の75の最も有力なビジネスアイデアの1つとして受け入れられたことを付け加えておきます。

最近BSCに基づく戦略マネジメントを実行していく核となる能力として、戦略マネジメントオフィス(OSM)の設置と戦略マネジメントオフィサー(SMO)の任命及びその役割が重要であることが判明しました。戦略マネジメントオフィスは、必要なスキル、メソッドロジー、及びツールを人々に装備して戦略の実行をコアコンピテンシー(核となる能力)にし、戦略的業績に明確に影響するために必要な組織ミッションを持ち、その役割は、BSCフレームワークとSFOメソッドロジーが戦略的課題を達成できるように、組織の至る所にうまく適用され、使われることを保証し、戦略の実行を全ての人々の仕事にすることです。又戦略

マネジメントオフィサーは、戦略を実行する際に、戦略を開発し、スコアカードによる戦略業績状況の報告、戦略的課題の設定等の新しい役割もっています。

私共は、セミナー、教育訓練、ワークショップを介して、BSC3つの基本メソッドロジー、OSMの設置と構成員の役割、SMOの役割に関する新たな教育訓練を提供してまいります。

一方戦略実行において、継続的な運用を管理し、成功へ導くためには、実行支援ツールの選択と活用は必須条件となります。1990年代前半初期のBSCは紙での報告、2000年以前までExcel等オフィスツールでの報告でしたが、その間の様々な課題を解決する為、2000年BSCメソッドロジー機能基準仕様(BSCol)の公表に基づき新しくBSCアプリケーションソフトが誕生しました。これが、私共が本格的に開発した日本で初のCockpit Manager™です。(図2 Cockpit Managerによる戦略の実行状況)

2000年にKaplan教授を日本に招聘して以来、本格的に普及活動が進んでいますが、しかし現状の日本企業のBSC利用サイクルは、まちまちであります。

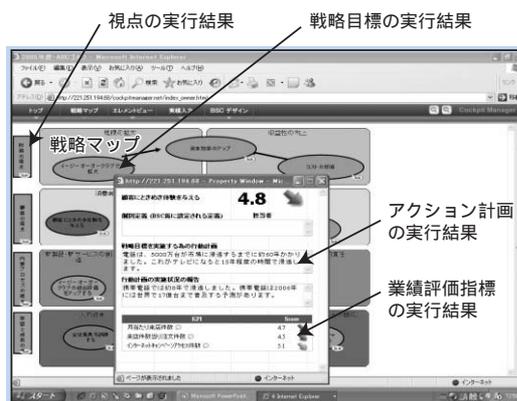
私共は、BSCに基づく戦略マネジメントの観点から、お客様の様々な経営・事業戦略の策定から実行管理までのソリューションを提供しお役に立てればと考えています。

注) BSCol: バランススコアカードコラボレイティブの略

図1. BSC3つの利用サイクルを通じて発展した歴史



図2. Cockpit Managerによる戦略の実行状況



日本ナレッジ・マネジメント学会
第8年度事業報告について

第8年度における学会事業の実施内容は以下のとおりである。

I. 総会

(1) 第八回会員総会

日時 平成17年3月19日(土)
場所 虎ノ門パストラル 1階鳳凰の間
議題 第一号議案 新規副会長・評議員・監事候補承認の件
第二号議案 第七年度事業報告及び決算承認の件
第三号議案 第八年度事業計画承認の件
第四号議案 第八年度予算承認の件
審議結果 原案どおり承認された

II. 評議員会

(1) 第七回評議員会

日時 平成17年3月3日(木)
場所 日本総合研究所 東京本社2階201特別会議室
議題 1. 研究奨励賞の決定
2. その他報告事項
審議結果 原案どおり承認された

III. 理事会

(1) 第九回理事会

日時 平成17年3月18日(金)
場所 虎ノ門パストラル 3階すずらんの間
議題 第一号議案 第七年度事業報告及び決算承認の件
第二号議案 第八年度事業計画案及び予算承認の件
審議結果 原案どおり承認された

IV. 年次大会の開催

・第8回年次大会 The Knowledge Forum 2005 の開催

日時 平成17年3月18日(金)19日(土)
場所 虎ノ門パストラル 1階鳳凰の間
内容

・1日目・平成17年3月18日(金)

1. 開会式
歓迎の辞とKMSJの紹介：
奈良 久彌 三菱総合研究所相談役
来賓祝辞： 香山 充弘 総務省事務次官
TKF開催の趣旨：高梨 智弘 日本総合研究所理事
2. 特別講演「アナトリア考古学研究所」
寛仁親王殿下
3. 基調講演 I 「知の概念」
野中郁次郎 一橋大学大学院教授
4. 基調講演 II 「Honda知のDNAとその継承」
福井 威夫 本田技研工業代表取締役社長

5. 基調講演 III 「知に基づく組織の構築」
Robert H. Buckman, Chairman of the
Executive Committee of Bulab Holdings, Inc.
6. 基調講演 IV 「知的資本」
Leif Edvinsson, CEO of Universal Networking
Intellectual Capital
7. 基調講演 V 「人間の経済を求めて」
神野 直彦 東京大学大学院経済学研究科長
8. 基調講演 VI 「感情IQ」
Peter Salovey, Dean of Yale College
9. 基調講演 VII 「欧米と日本の知の源流」
森田松太郎 KMSJ理事長
10. MAKE-Japan 表彰式及び MAKEについて
Rory Chase, Managing Director, Teleos

・2日目・平成17年3月19日(土)トラック A

1. 「認知理論と知」
加護野忠男 神戸大学経営大学院教授
2. 「全体と個の知」
高梨 智弘 日本総合研究所理事
3. 「組織の内在的価値と知」
岡田 依里 横浜国立大学大学院教授
4. 「ソーシャルネットワーキングと知識コミュニティ」
山崎 秀夫 野村総合研究所上席研究員
5. Country Report: Hong Kong
Waltraut Ritter, President HK KM Society
6. Country Report: Singapore
Kan Siew Ning, President
7. Herrmann Model
Robert Webber, Senior Consulting Partner,
Herrmann InternationalAsia
8. Knowledge Management in France
Jean-Yves Prax, Dr., President POLIA
Consulting Group
9. Knowledge Management in Brazil
Pierre Fayard, Dr., Chair Professor -
University of Poitiers, France

・2日目・平成17年3月19日(土)トラック B

1. 日本経営品質賞 1997 受賞「受賞企業の知」
千葉夷隅ゴルフクラブ 加藤 重正 前総支配人
2. 日本経営品質賞 2000受賞「武蔵野流ナレッジマネジメント」
小山 昇 武蔵野代表取締役社長
3. 日本経営品質賞 2003 受賞「CS経営を実現する知の共有」
富田 克一 NECフィールディング代表取締役社長
4. 「デジタル情報と知」
浮川 和宣 ジャストシステム代表取締役社長

第8年度事業報告について - 2

5. 「経営は裸足の風揚げ」
岩宮 陽子 飾一(カザリイチ)代表取締役
6. 「企業の知的資本評価による持続的成長モデル」
船橋 仁 アクセル代表取締役社長
7. 「営業力強化に向けた社内コミュニケーションの進化」
竹内 幹佳 住友生命保険 調査役
8. KMSJ Study Group Report (2)
古家 康裕 KMフレームワーク研究会会長
9. 「企業価値と知的資産」
徳田 省三 あずさ監査法人

V. ナレッジ・マネジメント研究年報の発行

・ナレッジ・マネジメント研究年報2005年第6号

発行日 平成16年3月15日

発行部数 1,500部

- 内 容
1. 日本の知識コミュニティ(実践コミュニティ)の特徴
山崎 秀夫
 2. 組織的知識構造の知識表象研究の貢献
- 組織知識の可視化に向けて
喜田 昌樹
 3. 座談会 企業価値とIR
森田松太郎、矢澤 洋一、石崎 忠司
 4. 知的資本の実体
船橋 仁
 5. 経営者の意志決定とナレッジ・マネジメント
- トップ駆動型のナレッジ・マネジメントの提唱
 6. 組織における技能形成とその影響要因
松本 雄一

VI. 学会報「KMレポート」の発行

(1)KMレポート vol.18

発行日 平成17年9月20日

発行部数 1,500部

- 内 容
1. 福井 威夫 巻頭言
 2. TheKnowledgeForumレポート
 3. 「知識コミュニティにおける経営」の紹介
 4. 事業報告について
 5. 決算報告書
 6. 役員/アドバイザーボード
 7. インフォメーション「学会提携紙のお知らせ」

VII. R.H.バックマン著「知識コミュニティにおける経営」

翻訳本の発行

発行日 平成17年3月19日

発行部数 500部

第八期 決算報告書

自 平成17年 1月 1日
至 平成17年12月31日

住 所 東京都中央区日本橋室町3丁目1番10号 田中ビル4階
株式会社日本ビジネスソリューション内

社 名 日本ナレッジ・マネジメント学会

貸借対照表

平成17年12月31日現在 (単位:円)

資 産 の 部	
【流動資産】	
現金及び預金	1,937,999
未収金	30,000
流動資産合計	1,967,999
資産の部合計	1,967,999
負 債 の 部	
未払金	1,890,000
負債の部合計	1,890,000
正味財産の部	
【剰余金】	
剰余金	5,604,152
当期末処理正味財産減少額	5,526,153
(うち当期正味財産減少額)	(585,504)
剰余金合計	77,999
正味財産の部合計	77,999
負債及び正味財産の部合計	1,967,999

剰余金処分(案)

平成18年3月19日

(単位:円)

当期末処分剰余金	77,999
これを次の通り処分する	
次期繰越剰余金	77,999

日本ナレッジ・マネジメント学会
第八期収支計算書
平成17年1月1日から12月31日まで

(単位:円)

科目	予算額	決算額	差異
I. 収入の部			
1. 会費収入			
法人会員 年会費 75社×100千円	7,000,000	5,600,000	-1,400,000
個人会員 入会金 50人×5千円		125,000	125,000
個人会員 年会費 600人×5千円	3,200,000	1,736,000	-1,464,000
雑収入		408,028	408,028
TKF収入	12,500,000	13,894,475	1,394,475
当期収入合計(A)	22,700,000	21,763,503	-936,497
前期繰越収支差額	663,503	663,503	0
収入合計(B)	23,363,503	22,427,006	-936,497
II. 支出の部			
1. 事業費			
年次大会費	200,000		-200,000
研究奨励賞費	200,000	200,000	0
研究会費	600,000	258,468	-341,532
情報提供費	1,350,000	2,083,162	733,162
KM格付調査費	2,000,000	1,890,000	-110,000
TKF支出	13,000,000	13,971,605	971,605
2. 管理費			
役員会費	200,000	24,500	-175,500
通信費	600,000	187,700	-412,300
消耗品費	500,000	106,767	-393,233
事務委託費	3,600,000	3,600,000	0
雑費	100,000	26,805	-73,195
3. 予備費			
	200,000	0	-200,000
当期支出合計(C)	22,550,000	22,349,007	-200,993
当期収支差額(A)-(C)	150,000	-585,504	-735,504
次期繰越収支差額(B)-(C)	813,503	77,999	-735,504

日本ナレッジ・マネジメント学会
第八年度事業計画

1. 年次大会の開催

平成18年3月19日(日)第9回年次大会を開催する。
場 所 法政大学市ヶ谷キャンパス
ポアソナードタワー26階スカイホール
時 間 3月19日(日)午前9時50分より午後5時まで

2. 研究会の開催

理論企業調査研究会 部会長 山崎 秀夫 (年3回程度)
企業調査研究会 部会長 田中 孝司 (年12回)
IT戦略的応用研究会 部会長 柳田 和幸 (年6回)
組織認識論研究会 部会長 加護野忠男 (年3回)
知的資本研究会 部会長 船橋 仁 (年数回)
ヘルスケア研究会 部会長 三浦 純一 (年3回程度)
リスクマネジメント研究会 部会長 真崎達二郎 (年数回)

3. 研究奨励賞の選考

選考委員会開催 平成18年12月 資料の収集
評議員会 平成19年 決定

4. 評議員会の開催 平成18年3月3日(金)
5. 理事会の開催 平成18年3月19日(日)
6. 常任理事会の開催 年5回
7. TheKnowledgeForum開催 平成18年9月
ブラジル・サンパウロ開催を予定
8. 研究年報の発行 平成18年5月を目途
9. 会員だよりの発行 日本語版 年3回
10. その他イベントの開催協力
(1)Teleos社「MAKE(最も賞賛される知識企業)」の格付協力
(2)平成18年4月11日(火)開催 日本経済新聞社主催
「ナレッジマネジメント2006 (東京国際フォーラム)」協賛
(3)平成18年7月26日(水)~28日(金)開催
「e-Learning world2006 (東京ビッグサイト)」協力
(4)平成18年9月7日(木)~9日(土)開催
「第12回品質機能展開国際シンポジウム(玉川大学)」協賛

日本ナレッジ・マネジメント学会
第九年度収支予算

収入の部			
会費収入	年会費 法人	60×100千円	6,000 千円
	個人	450人×8千円	3,600
	入会金 個人	30人×5千円	150
	計		9,750
書籍売却			100

前期繰越金 77
収入合計 9,927

支出の部

1. 事業費		
年次大会費		100
研究奨励賞費		100
研究部会費		800
研究年報		1,000
KMレポート	300×3回	900
格付け経費		1,900
		4,800
2. 管理費 役員会費		
通信費		560
消耗品費		400
事務委託費		3,600
雑費		200
予備費		200
		5,080
		9,880

次期繰越 47

■ 会 員

1. 法人会員（入会順）

株式会社NEC総研
 株式会社かんき出版
 株式会社UFJ総合研究所
 セントラル開発株式会社
 ARI研究所
 株式会社ダルトン
 富士ゼロックス株式会社
 株式会社リコー
 亜細亜証券印刷株式会社
 財団法人社会経済生産性本部
 アサヒビール株式会社
 株式会社三菱総合研究所
 株式会社大和総研
 株式会社日本総合研究所
 トヨタ自動車株式会社
 株式会社東機貿
 東日本電信電話株式会社
 日本経済新聞社
 株式会社日経BP
 株式会社協和エクシオ
 株式会社エヌ・ティ・ティドコモ四国
 株式会社ベネッセコーポレーション
 あずさ監査法人
 マイクロソフト株式会社
 NECソフト株式会社
 株式会社資生堂
 株式会社アタックス
 株式会社東洋経済新報社
 花王株式会社
 社団法人北海道開発問題研究調査会
 NECシステムテクノロジー株式会社

株式会社プライムズ・ナレッジ・ソリューションズ
 リアルコム株式会社
 株式会社NTTドコモ
 アクセンチュア
 PWCアドバイザリー株式会社
 エクスフィニティジャパン株式会社
 マツダ株式会社
 日本オラクル株式会社
 株式会社 アクセル
 日本ヒューレットパッカード株式会社
 i2テクノロジーズ・ジャパン株式会社
 ファクティバダウジョーンズ&ロイター
 Anti-AgingDoctorsInc.
 全国農業協同組合中央会
 東京エグゼクティブ・サーチ株式会社
 東京海上日動火災保険株式会社
 株式会社 ジャストシステム
 株式会社 オーケイウェブ
 株式会社 日立製作所
 大日本スクリーン製造株式会社
 株式会社 日本能率協会総合研究所
 東電工業株式会社
 日立システムアンドサービス
 株式会社 サトー
 日本ユニシス株式会社
 株式会社 電通テック
 シュプリンガーフェアラーク東京株式会社
 東洋エンジニアリング株式会社
 NTTビジネスアソシエ株式会社

以上60社

2. 個人会員

619名

日本ナレッジ・マネジメント学会 第10回年次大会（予告）

● 日 時 :	平成19年3月11日（日）
● 場 所 :	早稲田大学
● 年次大会長 :	花堂 靖仁
● 実行委員長 :	山崎 秀夫

今から、日程を入れておいて下さい。多数の御参加を期待します。

学会理事長 森田松太郎
 学会副理事長 高梨 智弘

Toward 2nd Decade of KMSJ 次の10年へ向けての知的活動の経緯

過去の大会日程とテーマ：自分で振り返って探してみてください！

- 2001年3月、第4回： 「・・・・・・・・・・・・・・・・」
- 2002年3月、第5回： 「・・・・・・・・・・・・・・・・」
- 2003年3月、第6回 「・・・・・・・・・・・・・・・・」
- 2004年3月、第7回： 「・・・・・・・・・・・・・・・・」
- 2005年3月、第8回： 「・・・・・・・・・・・・・・・・」
- 2005年3月、1st TKF東京
「Japanese Chi: Edge of Evolution」
- 2006年3月、第9回： 「・・・・・・・・・・・・・・・・」
- 2006年9月、2nd TKFサンパウロ
「Knowledge Management: The Cultural Issue!」

1 「ベンチマーキング入門」～ベストプラクティスの追求とナレッジマネジメントの実践～

高梨 智弘著

生産性出版

2006年5月23日

解説：

賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ。業界内外を問わず、ベストなもの自社との比較を行うことにより、そのギャップを埋め、現状を改善する有効な手段・方法論。ベンチマーキングは、現代の代表的な経営手法の一つとして定着している。本書では、S-P-D-L-Iの15ステップとともに、関連する経営手法、実践上のポイントなど、その全体像を解説していく。

2 「MOT知識創造経営とイノベーション」

野中郁次郎責任編集

丸 善

2006年

解説：

企業が自らと環境を変えていく活動を「知識創造」と呼ぶ。それは企業にとって最も重要な経営資源であり、企業の存在意義でもある。企業がどのように知識を継続的に創造し、その知識をもって経営をおこなっていくか、さまざまな企業のケースを取り上げ理論と実践の両側面から見解説する。

3 『グリッド時代』

妹尾堅一郎、関口智嗣著

ASCII

2006年

解説：

グリッドイノベーションは、100年に一度のサービス革新である。コンピュータの世界で広く知られた「グリッド」は、ビジネスの世界でも革新を起こしている。グリッドによるビジネス変革、経済社会への影響を読み解く。

4 『コトづくりのちから』

常盤 文克著

日経BP社

2006年

解説：

良きモノづくりを支えるためにマネジメントが打つべき施策の数々を「コトづくり」と定義、iPod、プリウス、魅力的な中小企業の事例などをベースに、「スピード」と「効率」だけの追求ではなく、モノづくりの場に祭りのような熱いエネルギーを注入して現場を豊かにするコトづくりの重要性を説く。

5 『コンテキスト転換のマネジメント』

寺本 義也著

白桃書房

2005年

解説：

本書は著者のこれまでの企業マネジメント研究の膨大な成果に基づき、パラダイムが大きく転換する知識社会における今後のマネジメントの方向性を「コンテキスト転換」という独自の視点でまとめ上げた、多くの貴重な示唆に富む一冊である。

<2006年6月現在>

平成17年度末における学会の組織内容は以下のとおりである。

■ 役員

会長	奈良久彌	((株)株式会社三菱総合研究所特別顧問)
副会長	野田一夫	(多摩大学名誉教授)
副会長	小井戸雅彦	((株)日本総合研究所特別顧問)
評議員会議長	若月三喜雄	(元日本銀行理事)
評議員会副議長	吉村久夫	((株)日経BP特別参与)
評議員会副議長	元田充隆	(三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)代表取締役社長)
理事長	森田松太郎	(ARI研究所理事長)
副理事長	嶋口充輝	(慶應義塾大学教授)
副理事長	高梨智弘	((株)日本総合研究所理事、新潟大学大学院技術経営研究科特任教授)
専務理事	一條和生	(一橋大学教授)
専務理事	加護野忠男	(神戸大学経営学部教授)
専務理事	久米克彦	(スズキ(株)常勤監査役)
専務理事	山崎秀夫	((株)野村総合研究所上席研究員)

■ アドバイザリーボード

花村邦昭	(日本(株)日本総合研究所 特別顧問)
野中郁次郎	(日本一橋大学大学院国際企業戦略研究科教授)
カーラ・オデール	(アメリカ アメリカ生産性品質センター理事長)
ディック・ミゼール	(アメリカ エクスアント銀行CEO)
竹内弘高	(日本一橋大学大学院国際企業戦略研究科科長)
トム・ダベンポート	(アメリカ パブソンカレッジ・ディレクター)
ピエール・ファイヤール	(フランス 仏伯科学研究情報センター長)
ローリー・チェイス	(イギリス テレオス社代表)
ウォルトラウト・リッター	(香港 香港ナレッジ・マネジメント協会副議長)

■ 評議員(50音順)

石井 威	(東京大学名誉教授)
石原 邦夫	(東京海上日動火災保険(株) 取締役社長)
江島 優	(東京エグゼクティブ・サーチ 代表取締役会長)
大森 康彦	(Anti-Aging Doctors Inc. 取締役会長兼社長)
唐津 一	(東海大学開発研究所教授)
岡井 紀道	((株)日経統合システム 代表取締役社長)
坂本 吉弘	(前アラビア石油(株)社長)
下田 邦典	(NPO法人 ITコーディネーター協会専務理事)
神野 直彦	(東京大学大学院経済学研究科科長)
杉之尾 宜生	(グッドウィル・グループ常勤監査役)
関 隆明	(NECソフト(株) 取締役相談役)
田中 榮	(大和総研特別顧問)
張 富士夫	(トヨタ自動車(株)会長)
常盤 文克	(花王(株)特別顧問)
花堂 靖仁	早稲田大学教授
浜田 広	((株)リコー最高顧問)
福地 茂雄	(アサヒビール(株)相談役)
宮原 明	(富士ゼロックス(株)相談役)
師岡 孝次	(国際学士院大学副総長)
横溝 陽一	(i2テクノロジーズ・ジャパン(株)取締役会長)

■ 理事(50音順)

阿片 公夫	(虎の門経営企画(株)代表取締役社長)
生田 哲郎	(生田・名越法律特許事務所 弁護士・弁理士)
石川 昭	(青山学院大学大学院名誉教授)
石崎 忠司	(中央大学商学部教授)
一柳 良雄	((株)一柳アソシエイツ代表取締役社長&CEO)
岩岡 保彦	(イワオカR&C代表)
岩本 繁	(JA全国監査機構監査委員長)
上野 守生	(亜細亜証券印刷代表取締役社長)
内田 和成	(ボストンコンサルティンググループシニア・ヴァイス・プレジデント)
岡田 依里	(横浜国立大学大学院教授)
尾原 重男	((株)三菱総合研究所 非常勤顧問)
岡本 正耿	((株)マーケティングプロモーションセンター代表取締役)
木川田 一榮	(富士ゼロックス(株)KDIパートナー)
喜田 昌樹	(大阪学院大学企業情報学部助教授)
国領 二郎	(慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授)
瀬川 大介	((株)リコー執行役員経理本部長)
高橋 均	(文教学院大学大学院教授)
田坂 広志	(多摩大学大学院教授)
田中 孝司	((株)熊谷組CS推進部部长)
谷口 恒明	(財団法人社会経済生産性本部理事長)
寺本 義也	(早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授)
眞崎 達二郎	(元シュプリング・フェアーク東京(株)編集顧問)
幸 富成	(東京理科大学大学院総合科学技術経営研究科教授)
矢澤 洋一	((株)日経BP 監査役)
山田 英夫	(早稲田大学アジア太平洋研究科教授)
吉川 宗男	(ハワイ大学名誉教授)

■ 監事(50音順)

境 健一郎	(かんき出版(株)代表取締役社長)	富尾 一郎	(川澄化学工業取締役相談役)
-------	-------------------	-------	----------------

Information



おしらせ

『経済産業新報』が、ナレッジ・マネジメント学会の提携紙に!!!

— 50%OFFで購読できます。—

このたび、日本ナレッジ・マネジメント学会では、コミュニケーションと情報発信力を強化するため、『経済産業新報』を提携紙として指定致しました。同紙は、創刊60年になる、経済産業政策の動向やハイテク産業の動きを伝える新聞として知られています。ナレッジ・マネジメントに対する理解も深く、今後同紙と密接な関係を持って、“ナレッジ(知)の普及”に努めていく所存です。学会活動に追加して、今後同紙の紙面を使い、学会員の皆さまにナレッジ・マネジメントの最新動向等を毎号お伝えしていきたいと、同紙の編集長が約束してくれていますので、ぜひ、学会員が新聞紙上で論文等を載せたい場合には、ご投稿下さい。購読等の申し込みは、同紙ホームページで『日本ナレッジ・マネジメント学会会員』と明記してお申し込み下さい。 <http://www.keizaishinpo.jp/>

● 新会員を募集しています

当学会は、ナレッジ・マネジメントに興味を持ち、研究意欲を有する法人・個人であれば、特に入会資格を制限しておりません。学会の活動にご参加いただける方がいらっしゃれば、是非参加を呼びかけてください。申し込みに必要な書類一式は、当学会事務局からご郵送いたしますので、必要に応じてご請求下さい。

● お申し込み方法

法人会員：「法人入会申込書」に必要事項をご記入の上、下記の当学会事務局宛までご郵送して下さい。折返し請求書、登録内容の通知書、会員名簿、研究年報及び最新の会員報を送付させていただきます。なお、法人会員は窓口担当者を合計2名まで登録できます。

個人会員：「個人入会申込書」に必要事項をご記入の上、下記の当学会事務局宛までご郵送していただき、その後に申込書に添付された郵便振替用紙にて会費をお振り込み下さい。ご入金を確認後、登録内容の通知書、会員名簿、研究年報及び最新の会員報を送付させていただきます。

* 請求書・領収書は原則として発行しておりません。

● 入会金・年会費について

法人会員は年会費100,000円（入会金なし）を下記の銀行口座へお振り込み下さい。

個人会員は入会金5,000円、年会費8,000円（2005年以降）を下記の銀行・郵便振替口座へお振り込み下さい。

法人・個人ともに年会費の期間は入会された年の12月31日までです。

申込書送付先：日本ナレッジ・マネジメント学会

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3-1-10 田中ビル4F (株)日本ビジネスソリューション内

TEL 03-3270-0020 FAX 03-3270-0056

E-Mail kms@gc4.so-net.ne.jp

● 年会費振込先：

- 銀行口座 口座人名：日本ナレッジ・マネジメント学会 理事長 森田 松太郎
 - 三井住友銀行 日本橋支店 普通7072689 ●三井住友銀行 日本橋中央支店 普通1085878
 - 三菱東京UFJ銀行 室町支店 普通3884012 ●三菱東京UFJ銀行 日本橋支店 普通3412822
- 郵便口座 口座人名：日本ナレッジ・マネジメント学会
 - 日本橋三井ビル内郵便局 00120-3-12323



2006 July

発行日 / 平成18年7月31日

発行者 / 日本ナレッジ・マネジメント学会

編集人 / 森田 松太郎・高梨智弘

製作 / (株)アイビジネスサービス

個人会員619名、法人会員60社（平成18年1月26日現在）

日本ナレッジ・マネジメント学会 事務局

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町3-1-10 田中ビル (株)日本ビジネスソリューション内

TEL 03-3270-0020 FAX 03-3270-0056